

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	関西学院大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	カンセイガクインダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	近畿地方(大阪府を除く)
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	ハンズオン・インターンシップ実習
	学部・研究科等名	ハンズオン・ラーニングセンター
	担当教職員名・役職	奥貫麻紀、ハンズオン・ラーニングセンター准教授
基本情報	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	44
	受入企業等数	21
	受入企業等名	株式会社栄水化学/株式会社特発三協製作所/有限会社松葉寿司/株式会社まいふれ with YOU/株式会社岸本吉二商店/株式会社米谷/一般社団法人あま・ひと・みがきプラットフォーム/デライトラボ/ワイエスフィルタージャパン株式会社/天然温泉蓬莱湯/有限会社賢屋遊亀/株式会社エアグラウンド/CO-LABO/くまの地域づくり協議会/能登町小木(能登町小木港スマイルプロジェクト)/株式会社ホテル海望/中能登町移住定住促進協議会/田尻寅蔵商店/まいもん処いしり亭(有限会社もりやま)/農家民宿 古民家こずえ/鳴本石材株式会社(K's LABO)
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ 5.他県をまたぐ広域インターンシップ 6.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
要素①	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	兵庫県、大阪府、石川県、岡山県の4地域で、中小企業や地域の団体が抱える課題を解決するプロジェクトに、学生自ら調査・企画・実践・検証まで取り組む。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している 9.その他
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	実践的・体験的な学習プログラムを開発・提供していくことを目的に設置されたハンズオン・ラーニングセンターが、学部に関係なく履修することができる「ライフデザイン科目」として実施している。
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	1年次~4年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	6単位
要素②	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本学のハンズオン・ラーニングプログラムは「キャンパスを出て、社会に学ぶ」をテーマに科目提供しており、当該インターンシップの説明会では、意義や目的について重点的に説明している。派遣決定までは、教職員、地域コーディネーターとの面談を経て、受入先との面接へ進む手順をとっており、どの段階においても、本人のインターンの目的、目標、意志、ならびに受入先やプロジェクトへの理解を確認して挑戦するよう促している。
要素②	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい

要素③	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している 5.その他
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	学生に対して、経験学習に基づく振り返りの重要性、および実施中の日報・週報における言語化やそれらの活用方法の理解を促す事前研修を行っている。
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている 4.その他
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	インターンシップの振り返りを実施した後、学生が自らインターンシップでの学びをどう生かすかを考え、これからの学生生活や将来について目標設定を行っている。
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している 3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	教職員が毎日日報を確認し、定期的にフィードバックを行っている。また、現地の中間研修や成果報告会に赴き、学生の振り返り、課題、他のインターン生との学び合い等の活動状況を把握している。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンの参加決定までのプロセスと自身の心境についての振り返り、インターンの目的・心構えの確認、受入先の目的やプロジェクトへの理解、各自の成長目標・プロジェクトの成果目標の設定、教職員やコーディネーターによる目標設定のフィードバックとブラッシュアップ、マナーやリスクの確認、インターン中の各種振り返りの重要性の理解等を、講義、個人・グループワークで実施している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	自分が取り組んだプロジェクトについてのプレゼンテーション(成果目標に対する自己評価含む)を行う。また、日報・週報等を活用し、事前研修時に設定した自己の成長目標と照らし合わせ、自身の成長等の変化や新たな課題発見を言語化し、今後の目標設定を行っている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	日報の確認とフィードバック、インターン開始後2~3週間後に各受入先を訪問(学生との面談、受入先・コーディネーターとの打ち合わせ)を行い、各地域で実施される中間報告会、最終報告会へも参加している。それにより、学生やプロジェクトの現状と課題、受入先の学生や大学に対する理解や要望などを確認している。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本学が将来グローバルで活躍するために不可欠な資質として掲げる「主体性」「タフネス」「多様性への理解」を踏まえ、インターンシップで到達を目指す関心・意欲・態度に関する3項目、知識・理解に関する1項目、技能・表現に関する1項目、思考・判断に関する2項目について、事前から事後の変化を測定し、それぞれの具体的な根拠について言語化されたものを確認している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している 2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間約6週間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間約6週間、加えて事前事後研修は各1日
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	

	5-3. 上記回答内容に関する詳細(記述欄)	当インターンシップは、職業観育成のための就業体験といった教育方法上の問題意識に留まらず、学生が社会の一員としての自覚を持ち、大学内の学びと実社会での学びの接続や、自らの学びの社会的意味を考え、今後の学びへと繋げていく学修機会として位置づけている。こうした考えのもと、学生が企業や社会の課題に取り組む実践型/プロジェクト型インターンシップに集中して取り組めるよう、春・夏休みに上記期間で実施している。
要素⑥	6-1. 大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1. はい
	6-2. 該当する大学等と企業の協働取組の内容	1. 企業や産業界にとつての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 2. 大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3. 企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4. 受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している 5. 企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している 6. 企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2. 以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3. 上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業向け事前説明会やモニタリング等で、当インターンシップの目的・趣旨に加え、学生への教育的効果を高めることで、結果的にプロジェクト成果も高まるなど、企業・地域にとつてのメリットを説明している。また、受入先にはアンケートに回答してもらい、学生の取り組みや成果に対する評価、受け入れ先の自己評価、大学に対する評価等をしていただき、大学・学生と企業・地域とが協働していく意義について確認し、改善している。
	7. 上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	・シラバス https://syllabus.kwansei.ac.jp/uniasv2/AGA030PLS01EventAction.do https://syllabus.kwansei.ac.jp/uniasv2/AGA030PLS01EventAction.do ・ホームページ(該当分はページ下部に記載) https://www.kwansei.ac.jp/c_hl/c_hl_012838.html
問い合わせ先	大学等名	関西学院大学
	担当部署名	教務機構事務部(ハンズオン・ラーニングセンター担当)
	担当者役職名	事務職員
	担当者氏名	南野 翠
	電話番号	0798-54-7479
	メールアドレス	kg-hands_on@kwansei.ac.jp